

Computer Report

Vol. 53 No. 1 1月号 (通巻 700号)

謹賀新年

■新たな波乱の幕開けか、安定政権の安寧か。民主党による政権交代劇は3年余で終わり、再度の政権交代劇となって新年を迎える。新布陣と言うべきか、復旧体制への回帰と言うべきか。選挙結果だけを見る限りは圧倒的多数を獲得した新政権だが、政策的にはほとんどすべて未知数である。ただ、今回の政権交代効果か、株価が1万円台を回復したと大騒ぎである。ちなみに平成元年の12月納会で38,915円だったことを今さらに思い出す。

■選挙のたびに、どの政党も景気回復を選挙公約のように叫び立ててきたが、果たして政治が景気回復にどれだけ寄与できるものか、この23年間の株価低迷を考えると大いに疑問である。やっと組閣が終わったばかりの新政権が、何もしていないところでの株価上昇など、とてもではないが今後の経済成長を約束しているものだとは思えない。むしろ、不気味である。単なるご祝儀相場で終わらぬことを、ひたすら願うばかりである。

■歴史に学ぶというが、もの作りを忘れた日本がいかにかしたら再生できるかを考えると、今、日本および日本人は、歴史から何を、どう学ぶべきかとつくづく思う。去年はiPS細胞の山中教授がノーベル賞を受賞するという快挙があった。ご当人は、過去の実績で評価されたに過ぎない。問題はこれからの研究活動であると言った。まさに至言である。新しい年頭にあって、日本そして日本人が持つべき気概を示されたような気がする。

■新年に向けて様々な決断をするのも、人生の大きな節目である。この暮れに何人かの知人がこれまでの勤務先を離れる決断をした。自分の意思での人、周囲の事情／環境による人と、様々な理由があるようだが、特に目立ち、気になったのは、自分の意思で長年の勤務先に三行半を突き付けた人達のことだった。いずれも、働き盛り、腕前のあるIT技術者たちである。新天地での、なお一層の勇躍を祈念したい。

■日本の大企業には、人材が豊富で、まだまだ余剰人材で溢れかえっているのだというむきもあるかもしれない。しかしながら、大企業における昨今のシステム開発案件が、目立って失敗していることを思うと、とてもそんな余裕があるとは感じられない。大企業病という指摘があった過去の歴史を思い出す。むしろ危機感の無さを感じ、気にかかる。社員に見捨てられた会社はともかく、その人材を必要としている企業の存在が光明である。

■適材適所というが、適材を活かせる適所／使いこなせる使い手の不在／不足も、悩める日本の現状だと言えるかもしれない。諸行無常、企業無常。国家運営も企業経営も、最終的には人材に依存するはず。23年間の株価低迷に象徴される日本経済だが、果たしてこれを脱却するだけの人材育成はできているのだろうか。札ビラを刷り上げると豪語する政治家たちが有頂天で迎えた2013年。日本国民の選択の真価が問われる。

■日本および日本経済を前向きにリードする担い手の登場と叡智に期待したい。ひとり一人が、それぞれのノルマを果たすことも祈念したい。私事になるが、弊誌は本号をもって通巻700号となった。月日を重ねただけのこととは言え、半世紀を越えて読者諸賢、執筆者の皆様、関係各位に支えられてのことを思い、厚く厚く感謝を申し上げる次第である。本当に長きにわたるご支援の数々、伏して、心より御礼申し上げます。(藤見)